

平成26年（ネ）第126号 大飯原発3，4号機運転差止請求控訴事件

一審原告 松田正 外187名

一審被告 関西電力株式会社

証拠説明書

平成27年6月24日

名古屋高等裁判所金沢支部民事部第1部C1係 御中

一審原告ら訴訟代理人弁護士 佐藤辰弥
同 弁護士 笠原一浩

号 証	標 目 (写し・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲149	平成23年6月1 6日赤旗新聞記事	写 し	H23.6.16	赤旗新聞	債務者は、天正13年（1586年）の「天正大地震」で、若狭湾沿岸が津波により大きな被害を受けたことを記した文献が存在することを知りながら、「信用できないもの」として検証せず、津波による被害記録がないと説明してきたこと。
甲150	ネット記事	写 し	H23.6.30 取得情報	一審被告	福井県美浜町の常神半島東側に過去、大津波が押し寄せ、村が全滅したとの記録が存在すること。（但し、一審被告がこの事実を津波想定的基础にした形跡は見当たらない）
甲151	日本海の未知の大 地震による津波の シミュレーション ：若狭湾北方沖の	写 し	H18.10.31	石橋克彦， 原田智也	津波に関する伝承について。

号 証	標 目 (写し・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
	場合				
甲152	平成23年12月 3日京都新聞記事	写 し	H23.12.3	京都新聞	波せき地蔵の伝承について。
甲153	舞鶴市史 通史編 (上)	写 し	H5.3.20	舞鶴市編 さん委員 会	日本海の地震による津波の 例。
甲154	平成23年12月 11日読売新聞記事	写 し	H23.12.11	読売新聞	古文書による津波調査の必要 性。
甲155	若狭湾周辺海域の 第四紀構造運動	写 し	H21.9.30	山本博文	隠岐トラフ周辺の断層の活 動が活発であると推定される こと。
甲156	西南日本、とくに 近畿トライアングル をめぐるネオテ クニクス(「日 本の地質学100 年」日本地質学会 編所収)	写 し	H5	藤田和夫	「近畿トライアングル」の概 念の説明。
甲157	意見書ー若狭原発 の津波想定につい てー	写 し	H24.4.4	京都大学 名誉教授 志岐常正	若狭湾の海域の活断層が活 動した場合、ブロックをなす地 盤が瞬間的に沈降、又は上昇 し、従来想定されていなかった 津波が発生する危険があるこ と。
甲158 の1	新聞記事	写 し	H27.5.19	読売新聞	本件原発からほど近い高浜町 において、天正大地震の時とみ られる津波痕が発見されたこ と

号 証	標 目 (写し・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考	
甲158 の2	同上	写し	H27.5.24	東京新聞	同上	
甲159	東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会報告要点	写し	H23.9.28	中央防災会議	既往最大クラスの地震津波を検討すべきこと。	
甲160	平成23年8月13日毎日新聞ネット記事	写し	H23.8.13	毎日新聞	立地を問わず、過去最大の揺れと津波を同じ重みをもって安全性を考慮するよう改めるべき」であり、「過去最大というのは、原発の敷地でこれまでに記録したものではなく、日本、あるいは世界で観測された最大の記録を視野に入れることが重要」であること。	
甲161	福島第一原子力発電所事故を踏まえた若狭地域の原子力発電所の安全対策の実施状況について	写し	H23.7	原子力安全・保安院	原子力安全・保安院によって、福島原発事故の経緯、津波の高さ、同事故をふまえて講じるべき措置などについて発表された内容。	

以上